〔ベルーガバッチ〕

（園内売店で販売しています。）

## 夏休み　園内催し物について

梅雨明けも直近かに、やがて夏のシーズンに入りますが、今年の夏も楽しく過していただこうと次のような、催し物を企画いたしましたのでお知らせいたします。

**①西瓜割り大会**
どなたも参加できて、楽しめるものと思い企画いたしました。奮って参加して下さい。

**②金魚すくい**
夏の風物として、縁日の気分を味わって下さい。尚１回100円の有料です。その外に、ヨーヨーつりも用意しました。

**③氷の彫刻**
日本の氷の彫刻コンクールで二位という技術をもっている高山研志さんを招き、彫刻の実演と展示をいたします。

**④ベルーガのサンバイザープレゼント**
入園のお子様に、ベルーガのサンバイザーをプレゼントいたします。

**⑤サマースクールの開校**
海の生物について飼育係が指導いたします。
各回20名で申し込み制をとりますので早目に申し込んで下さい。　費用　３００円。
スケジュール
8/3～8/4　小学校５年、６年を対象。
8/5～8/6　中学校１年、２年を対象。
8/8～8/9　小学校３年、４年を対象。
時　間　10時～14時。昼食各自持参。

**⑥磯の生物タッチングコーナー**
魚、海藻、イソギンチャクなど、海の生物を、手でさわって実際の感かくを知ってもらうコーナーを設けます。

**⑦遊泳プールのオープン**
ジャンボロータープールを７月17日（日）よりオープンいたします。流れるプールで、健康な体をつくって下さい。

以上夏の催し物について、ご案内いたしましたが、外にも動物ショー関係の内容を夏にふさわしいものに変更し、皆様に楽しんで、いただく様準備いたしております。

**表紙説明**

愛くるしい眼を中心に、大変愛嬌のある顔をしている「ベルーガ」は、吻部に嘴がなく上顎が唇様に突き出していて、極めて小さな歯を上下顎に各８～10対もっています。頭部は円く柔軟で、鳴声を発するときは、メロン部が伸縮し、しわがみられます。（大島記）

南房総国定公園
鴨川シーワールド
千葉県鴨川市東町1464－18　TEL 04709(2)2121

# さかなまた

ベルーガ特集　生物の豆辞典　1977.7—NO.10

## ◎北極海のベルーガ生捕り作戦

昭和51年8月15日、朝5時30分起床、外気温11度、河の水温10.5度、真夏とはいえ北緯58度に位置するカナダ最北端の港町チャーチルはさすがに寒い。後頭部に残る眠気もこの寒さでたちまちのうちに消えさる。

水中作業用のウェットスーツに身をかため、上に羽織った防寒用ジャンパーのえりを立ててカヌーの係留地点へと急ぐ。ふと目を向けた河幅2kmにもたっするチャーチル河には、いくつかの「ベルーガ」の白い姿が薄茶色の水面に見え隠れ、俗にいう潮吹きも河のあちらこちらに多数吹きあげている。風もなく鯨の数も多く最良のコンディションで、生捕り成功間違いなしの自信を深める。

カヌーの係留地点には、すでに作業に協力してくれるカナダ人クルー7名が勢ぞろいしていた。顔ぶれはエスキモー、インディアン、白人などまちまちである。午前6時、高速船外機を備えた5隻のカヌーに鴨川シーワールドのスタッフ4名を含む11名が分乗、エンジンの音もたからかに「ベルーガ」を求めて出発した。

ここで「ベルーガ」について簡単に紹介しておこう。体色が全身白色であるところから英名「ホワイト・ホエール」カナダでは一般に「ベルーガ」(ロシア語で“白„の意味）と呼ばれ、日本では「シロクジラ」あるいは「シロイルカ」と名付けられている鯨の一種で、極冠をとりまく北極洋に5,000頭から10,000頭が生息しているといわれている。

彼等は氷の解けはじめる夏になると繁殖のために移動をはじめ、主生息地である酷寒の北極海をあとにして、北緯50度附近にまで南下する。繁殖は水温の暖かい大河川の海水が混入する河口でおこなわれるので、この時期には多くの「ベルーガ」が淡水の河川に姿をあらわす。我々が生捕り地点に選んだチャーチル河もハドソン湾内にあるいくつかの繁殖場所の一つなのである。

誕生したばかりの「ベルーガ」の体色は、白色ではなくアイネズミ色をしていて、全身白色になる「ベルーガ」とは想像もつかない体色をしているが、年を経るにしたがって白くなってゆき、ついに全身白色となって30年以上の一生をすごすと考えられている。

一般生態については、部分的に知られているにすぎないが、その中でも本種は他のクジラ類と比べると特に良く鳴くことが知られ、「海のカナリヤ」のニックネームがつけられている。川に停泊中の船に乗っていた人が、このクジラの鳴き声によって一晩中眠れなかったという逸話さえある。

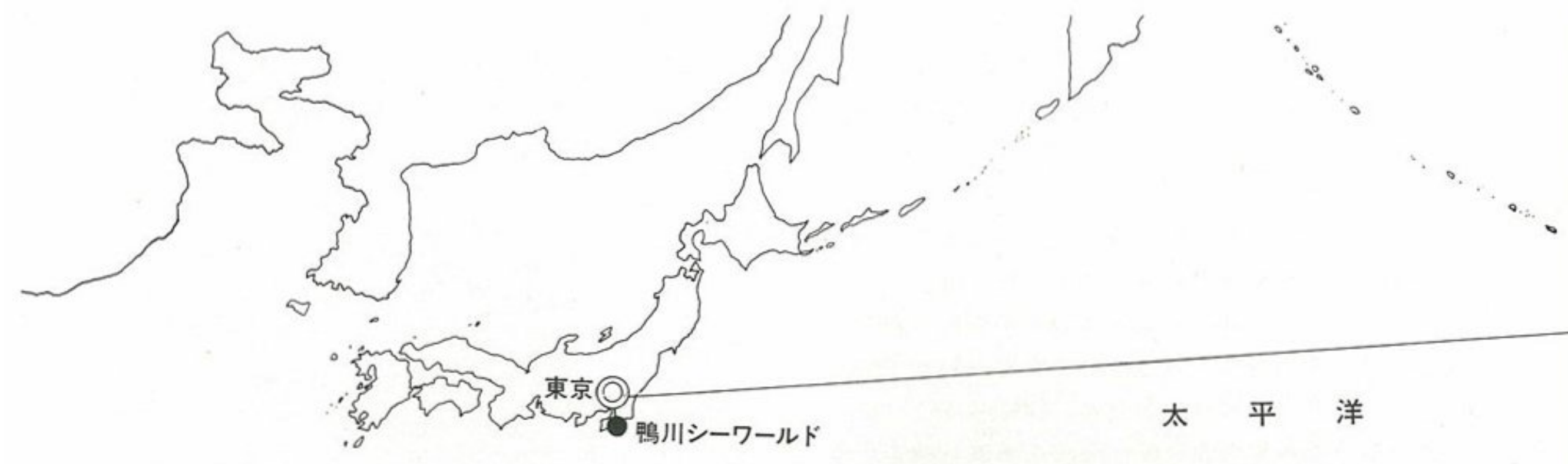
ここで一つ断っておくと、日本では「シロクジラ」と呼ばれていることから、よくメルビルの有名な小説に登場する“白鯨”と同一視されることがある。しかし、この白鯨は「マッコウクジラ」の年老いた個体か、アルビノ（白子）のことであり、我々が生捕ろうとしている「ベルーガ」とは全く別のアニマルなのである。

この極地にのみ生息する稀少でビューティフルなアニマルを飼育しようとする試みは、今から100年前の1877年から始められた。しかし、生息地が北極海という特殊な環境であるところから、輸送手段、飼育環境などがおもうにまかせず、今までに西ドイツ、カナダ、アメリカの3ヶ国が成功したにすぎない。その上、1968年からは、カナダ政府がこの「ベルーガ」を保護動物に指定して生捕りを許可制とし、生捕り方法は、網、もりの使用を禁止した。即ち、手づかみによる方法のみを許可するという厳しい条件が定められた。我々鴨川シーワールドのスタッフは、このクジラを手づかみにするという一見勇壮に思えるが、常識的には不可能としか考えられない条件を承知の上で、カナダ政府の好意により許可を取得し、極寒の地チャーチルで生捕り作戦を開始したのである。

さて、再び生捕り作戦にもどることとしよう。河の中央に集結した5隻のカヌーは、各船まちまちに若い「ベルーガ」を求めて散ってゆく。カヌーのへさきには両足で仁王立ちしたジャンパー（現地ではキャッチャーとはいわない）が水面をにらみ、船尾に座ったドライバーはジャンパーが指先だけで出すカヌーの進行方向のサインにあわせて巧みに舵をあやつる。まさに人船一体となった一つの生きものに変わる。

「ベルーガ」を発見するや、スピードをあげたカヌーと「ベルーガ」との追い掛けっこが始まる。柔軟な体の持主である「ベルーガ」は、水中で一転又一転、スルリスルリとカヌーをかわす。軽い船体のカヌーも負けてはならじと急反転、追跡を繰返し執ように食い下がる。しかし、駆け付けた僚船の応援を得たカヌーは、「ベルーガ」を河岸近くの浅瀬に追い込んでゆく。浅瀬に入った「ベルーガ」は推進力である尾ビレを自由に動かすことができなくなり、やむなくスピードを落としカヌーの追跡を受けながら泳ぎ続ける。この時こそ生捕りのチャンスなのである。カヌーは川底に散在する岩にスクリューをぶっつけながら「ベルーガ」に接近する。まるでデコボコ道を走る車のように、しばしばカヌーは水上に飛び上る。「ベルーガ」とカヌーが並ぶ。好機を待っていたジャンパー達は、手にロープを握りしめ「ベルーガ」の背中目掛けて次々とジャンプする。うまくタイミングが合い背中に馬乗りになれれば水中で頭の下からロープをまわし縛りあげるようにして取り押える。もちろん、「ベルーガ」とて突然背中に飛び乗られるのだからビックリし必死の逃亡を企て大暴れをする。水中でジャンパー達と「ベルーガ」の大格闘が行なわれるのは当然の成り行きである。しかし、全てが全て成功するものとは限らずスルリと「ベルーガ」に体をかわされ、川底の岩でイヤというほど体を打ちつけたり、運が悪い時は自分の乗っていたカヌーの船底で頭部を強打したりすることもあり、果ては生捕りに執念を燃やすジャンパーと「ベルーガ」との水中での追い掛けっこすら始まる。このようにして、のべ40数回のジャンプが試みられ、8月15日メス1頭、8月16日オス、メス各1頭の3頭を無事生

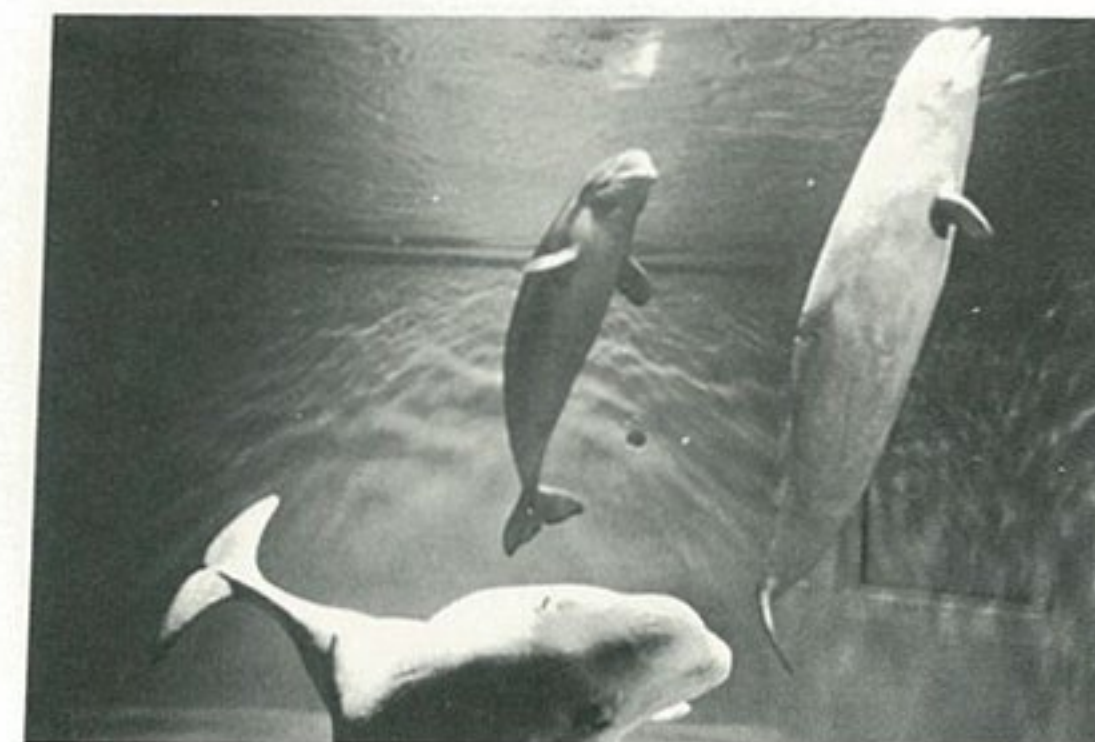
捕りすることに成功した。その後、9月から10月にかけて町の中にまで出没するシロクマの脅威にさらされながら寝ずの番を続け、1ヶ月間の蓄養も終了してチャーター便にて約10,000km延べ30時間の輸送のすえ、9月19日無事に鴨川シーワールドに搬入された。世界でも珍らしい「ベルーガ」が日本で観賞できるようになったのである。

（鳥羽山記）

## トピックス

### ◎白クマとベルーガ

カナダのハドソン湾にあるチャーチル河でベルーガを生捕り、日本へ運ぶまでの約1ヶ月間、現地で蓄養しましたが、この時、白クマ（北極グマ）からベルーガを守るために、24時間銃を持った監視員をやといました。それは、チャーチルの町が、世界的にも有名な白クマの生息地域にあり、毎年9月から10月になると、町の中にまで白クマがやって来るほどの所だからです。そのため、町のあちこちには、白クマを捕えるオリが用意されていました。

白クマは、ベルーガが大好物で、遠い所から、嗅をかいでやって来ます。日本への輸送準備にとりかかった9月15日には、突然、風間から白クマがベルーガの蓄養プールのすぐそばまでやって来ました。私たちは、間近かで大きな白クマを見てビックリしてしまいましたが、監視員達は、白クマに銃を発砲して追いはらい、その後、すぐ近くのワナにかけ、生捕ってしまいました。

現地で蓄養していた隊員達は、このような危険な目に数回会いましたが、無事3頭のベルーガを蓄養し、日本へ運んで来ることができました。（清水記）

## シーワールドのアニマル達

### ◎ベルーガ(シロクジラ)について

体色は、出産後数年間はアイネズミ色ですが、成体になると全身白色になります。外形的に普通のイルカと異なる一点は、背鰭がありません。ただし背鰭のあるべき所には皮膚の高まりが約10cmの長さにわたって存在しています。頸推骨7個は全て分離しており、その為に頭部が左右上下によく回転します。その生活は不明な点が多いのですが、極冠をとりまく北氷洋及び北緯50℃付近まで生息し、その生息数は5,000～10,000頭と推定されています。成長すると体長は5mに達し、寿命は約30年と云われています。当館には3頭が飼育されており、各々の横顔を紹介しますと、気が強く茶目気のあるポール、温和しく可愛気のあるチッチ、そして一番大きいローラは、警戒心は強いが落ち着いた雰囲気があり、3頭異なった性格を有しています。3頭の体長、体重は次の通りです。

| 名　前 | 性　別 | 年　令 | 体長cm | 体重kg |
|---|---|---|---|---|
| ポール | 雄 | 3 | 253 | 262 |
| ローラ | 雌 | 5 | 306 | 452 |
| チッチ | 雌 | 3 | 251 | 242 |

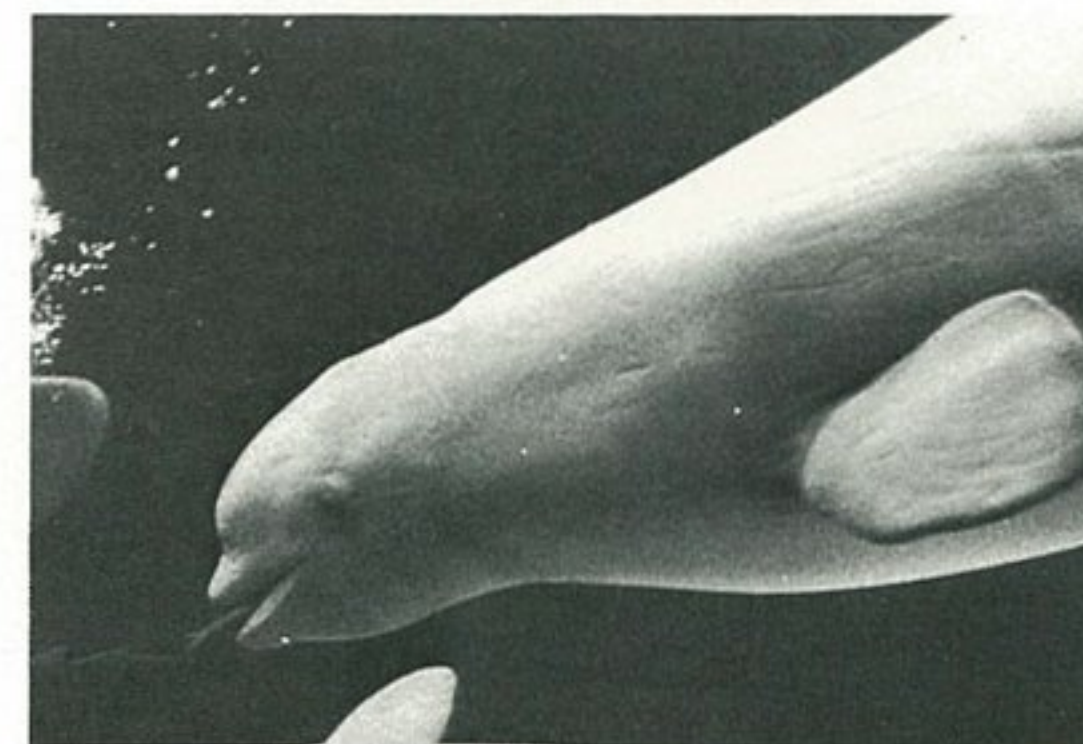
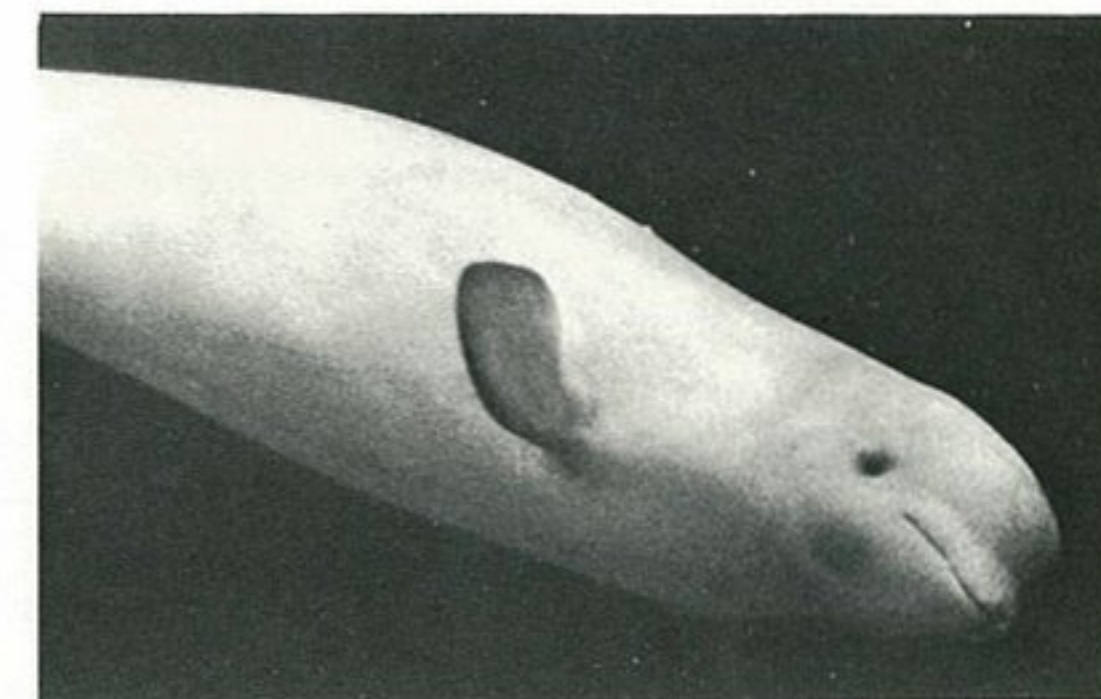
（昭和52年5月17日現在）　　（大島記）

### ◎ベルーガの名前について

昨年9月に、カナダ・チャーチルより空路1万kmを飛び、日本にまいりました「ベルーガ」は、10月1日に一般に公開いたしました。今年の正月から、ショーをごらんになっていただいておりますが、いまでは鴨川シーワールドの空気にもなれて、シーワールドのスターとして、お客様に親しまれております。

まっしろな体、かわいい目、首をかしげてみるしぐさ、こんなところがイルカと異ったかわいらしさがあります。

この「ベルーガ」達に名前をつけていただこうと、新聞、テレビ、チラシ等で、名前を募集いたしました所、北は北海道、南は沖縄から大勢の人達が応募してくれました。応募された中には、いろいろの名前がありましたが、各々約千種類の名前があり、その中から、3頭の性格等を考慮し、次の様に決まりました。

| | |
|---|---|
| メス（大きい個体） | ローラ |
| メス（小さい個体） | チッチ |
| オス | ポール |

チッチ

「ローラ」生捕り隊が北極海で見た、美しいオーロラのように育って欲しいという意味から名付けられました。外に比較的多かった名前は、メリー、リリー、ラン、マリー、ミミ、ベル、ハナ子、ピーコ、サリー、シロ、シーなどがありました。

「チッチ」「ベルーガ」は「海のカナリヤ」ともいわれ、チーチーと良く鳴くところから「チッチ」と決まりました。外には、チャッピー、チーコ、ピーコ、ピピ、ベル、マリ、マル、ミミ、メリー、リリー、ルル、ルー等が多く投稿されました。

「ポール」北極海に生息する動物で、極を英語でポールということから名付けられました。外にガン、ケン、ジョン、シロー、シロ、タロー、デコ、ドン、ベル、ベガー等が多くありました。　（蛭田記）

ローラ

ポール